

額畢淖爾

阿雅爾淖爾

葦湖

賽里木淖爾

つゝ在りと云ふ。

額畢淖爾又布爾哈齊淖爾とも稱し精河の北に在り。東西約十里、南北約十五里、周回約七十里、水量は冬夏共に盈虧なく、湖岸の水蒸散して自然に結晶し、多量の鹽を産するが故に、或は鹽海と稱す。奎屯河、博羅塔拉河の諸川注入するも、一も漏洩する河流なし。沿岸は東西南の三面は荒漠たる沙磧沼澤地に屬し、北方は稍開けたる原野を成せり。

阿雅爾淖爾一名額彬格遜淖爾は、瑪納斯城の西北に在りて、東南は沙地、西北は原野に接し呼圖壁河及瑪納斯河等の注入するもの有るも復た流出せざるに因り、水量多く、冬夏共に同一なり、周回は略ほ額畢淖爾に似たり。

葦湖は烏魯木齊の北を遮蔽する一大沼澤にして、連亘百餘里に達し、一望際涯を見ず。湖上蘆葦密生、水量甚た少なく、淤泥深きこと丈餘、人畜之に入るもの、輒ち頭を没し、復た救ふべからずと云ふ。

賽里木淖爾は、伊犁の三臺に在りて、形狀瓜の如く、楕圓を成し、濶さ約六里、長さ約八里、水深最も大なりとす。湖水透明、三四尋を隔て、水底の石尙ほ數ふべく、山影